



都立府中療育センター新聞 第468号 発行日 平成28年11月30日

## 第43回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会

事務長 平山 信夫

11月10日（木）、11日（金）の2日間、第43回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会が新横浜国際ホテルで開催され、当センターからは柳瀬院長と平山が参加しました。

本協議会は、東日本地域の重症心身障害児者施設で構成されるもので、3つの地域ブロック（北海道・東北、関東、中部）に所在する施設が毎年交代で開催を担当しています。今年度は、関東ブロックの神奈川県内の9施設が当番となって協議会を開催し、東日本地域58施設の理事長、施設長、看護部長、事務長など、約160名の参加がありました。

初日は、開会式の後、「重症心身障害児者と感染症・ワクチンの話題を中心に」と題して、聖マリアンナ医科大学感染症学講座 國島広之教授の講演がありました。感染を完全になくすことはできないが、ワクチン接種や手指衛生、マスク着用、面会制限など、できるだけ多くのフィルターをかけ、アウトブレイクを防ぐことが重要であると強調されました。

次に2件の調査発表があり、「相模原療育園で地域医療研修を行った医師の意識調査」では、地域医療研修を受け入れることで、重症心身障害児者に関心を持つ医師が増え、将来的に施設で働こうと考える医師が増えるのではないかと結ばれました。

引き続き、報告協議事項として、会則改訂の協議、児者一体運用の見直しと障害児支援のあり方についての報告、神奈川県重症心身障害児者協議会で作成したヒヤリハット事例集の紹介などがありました。この事例集は、神奈川県内の重症心身障害児者施設で起こったヒヤリハット事例をまとめたもので、当センターでも大変参考になるものでした。

2日目は、「様々な社会資源を利用して地域で生きる～神奈川での入所施設以外のサービス体系の紹介～」と題したシンポジウムが行われ、5人の演者から発表がありました。入所施設が少ないなかで、診療所、病院、通所施設、自治体などがそれぞれ工夫し、在宅支援に取り組んでいる状況が発表され、質疑が行われました。

午後は、横須賀市にある重症心身障害児者施設「ライフゆう」を見学しました。この施設は、海の見える丘の上に建つ、平成26年に開設された新しい入所施設です。全館カーペット敷きで、入館者は玄関で下足することになっています。病室や通路幅など空間にゆとりがあり、また、館内の造作やベッドなど、至る所に木が使われているなど、明るく温かい印象を受ける施設でした。

全体を通じて、重症心身障害児者施設が現在直面している課題について、様々な視点から活発な質疑、意見交換、情報提供が行われ、有意義な会議でした。



## 秋の企画「おもひで喫茶」

指導科 藤井 悠紀子

11月16日（水）秋の企画を行いました。今回のテーマは「おもひで喫茶店」ということで、あじさい館には各病棟の制作物や昔（なんと昭和40年代から60年代！）の療育センターの写真や映像が展示され、焼きいもと焼きりんごが振舞われました。

焼きいもと焼きりんごは、焚き火で温められ、フードプロセッサーでペースト状にして提供されました。お好みで、シナモンシュガーやストロベリーシュガーなどをかけることができ、みなさんメニューを見ながらじっくりと選んでいました。味の方はどうかというと・・・ほんのりとした甘さに、利用者、ご家族、職員と来店されたみなさんから笑顔があふれていました！

さて、秋の味覚を堪能しつつ、注目を集めたのが昔の療育センターの写真や映像です。「こんな時代もあったのね～」 「〇〇さんじゃない？」など様々な声があがりました。利用者も自分が写っていないかと真剣な表情で探していました。

今年の秋の企画「おもひで喫茶店」みなさん楽しんでいただけたでしょうか？来年もどうぞご期待ください。



## 秋祭り

2-A 星屋 聡子

2階病棟Aでは、11月18日（金）秋祭りを行いました。

みこしは、金の鈴等華やかな装飾がされ、金色に輝いていました。てっぺんには利用者が可愛がっている「ぞう」のぬいぐるみが乗っていました。始めに、ディルームに全員が集まり、「おみこしわっしょい、わっしょい、わっしょい」とみんなで威勢の良い声をかけました。元気なかけ声と共に太鼓や笛が鳴り響き、大きなうちわで扇ぎながら、みこしをエレベーターホールまで引っ張りました。笑顔いっぱい太鼓を叩いたり、声を出したりにこにこしながら見ていました。

病棟には「メタセ神社」を設置し、真剣な表情でおみくじを引き、大大吉が当たった人もいました。他病棟やボランティアの参加もあり、みんなで賑やかに秋祭りを楽しむ事ができました。



## 第12回アジア小児科学研究学会に参加してきました

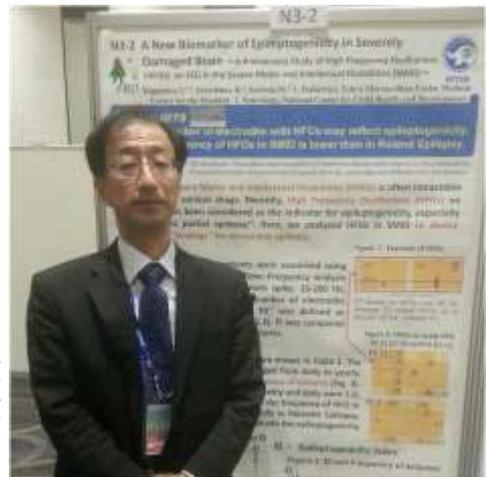
小児科 長澤 哲郎

タイ王国バンコクで開催された小児科の学会に参加し、日頃の研究成果を発表してきました。受付は、タイ人、日本人、その他外国人の3つのデスクに分かれていました。日本人の参加者は69名と、全体のほぼ4分の1を占めており、発表数もタイからのものとほぼ互角でした。招待講演も多く、この分野での日本の存在感を感じました。冒頭、先日亡くなられたプミポン国王に対する黙祷が行われました。ドレスコードもできるだけ黒に近い色とのことで、私も受付でいただいた喪章を左腕に付けて（写真をよく見てください）参加しました。

タイでの開催らしく、最初はデング熱に関する講演でした。日本でもデング熱が普通にみられるようになった現在、「遠い国」の話ではなくなりました。小児の場合は重症化しやすく、蚊に対する防衛などは限界があるので、ワクチン開発が急務となっています。すでに2年前から日本を含む3社のメーカーが治験を行っており、7、8割の効果を認めているそうです。続いて先天性代謝疾患に対する新しい治療法の講演がありました。この分野では、脳に薬が届きにくいいため、有効な治療法がなく、最終的に寝たきりになることが多いです。薬を直接脳室内に大量に投入したり、脳へ届きやすい鼻の奥にスプレーしたりするといった投与法の工夫のほか、正常な遺伝子をウイルスに組み入れて脳に注入することで病気の進行を抑えるばかりか改善することも可能といった夢のような治療法も紹介されました。当センターにも関係の深い内容ですので、興味深く拝聴しました。その他、難治なてんかんに関してこれまでと発想を変えた治療法、具体的にはステロイドや磁気刺激といった治療法を検討する必要があるという話や帝王切開は実はいろいろな病気のリスクファクターになっている話など、役に立つ内容が盛りだくさんでした。

私の発表は2日目の午後にポスター会場でありました。これは、国立成育医療研究センターとの共同研究で、てんかん発作の起こしやすさを脳波の速い波の成分（速波）を解析することにより客観的に数値化できるという内容です。一般的なてんかんでは両者に強い関係があることがわかり、多くの学会で発表をしてきましたし、この数年で論文も続々とできました。しかし、重症心身障害児者においてはまだ研究はなされていませんでした。私は、当センターの20名の患者さんの脳波データを使わせていただき、けいれんの頻度が速波にほぼ比例することを突き止めました。発表では、なぜ通常の速波の定義（80Hz）を使わないのかというような、かなり専門的な質問も寄せられてアジア地域のレベルの高さを感じました。この分野では難治なてんかんが多いので、本研究が治療に役立つことを期待しています。

学会の楽しみのひとつに、旧知の先生方と再会することがあります。今回も学生時代にお世話になった先生や留学時代のタイ人の同僚とも旧交を温めることができました。さらに、タイやシンガポールで活躍する日本人と知り合いになるなど、交流の面でも有意義な学会でした。最後に、今回の研究に脳波の使用を許可して頂いたご家族と3-2病棟を守っていただいたスタッフの皆様にご挨拶申し上げます。



メタセこいやんとくぬぎちゃんタイデビュー

## 東京都永年勤続感謝ほか伝達式

11月7日（月）「東京都永年勤続感謝状」が15名に、「東京都社会福祉協議会会長感謝状」21名に、「公益社団法人日本重症心身障害福祉協会永年勤続者表彰状」が12名に授与されました。

今後ますますのご活躍を期待しています。



## 新人看護職員臨床研修修了式

11月8日（火）平成28年度看護職員臨床研修修了式が行われました。  
6か月間の研修を終えた新人看護師のコメントを紹介します。

<p>6か月という、長いようであつという間の臨床研修が無事に終了しました。看護の基礎から重症心身障害児者特有の看護まで幅広く、充実した内容でした。多くの方に細かく丁寧にご指導いただき、とても感謝しております。今後は自分の業務だけでなく、チームの一員として貢献できるよう、さらに学びを深めていきます。そして、利用者が安心して過ごせる、快適な生活の場を提供できるよう、なお一層頑張りたいと思います。</p>	<p>先輩方の丁寧なご指導の下、6か月間の臨床研修を終えることができました。配属当初は、重症心身障害児者との関わりに戸惑いがあり、利用者を緊張させてしまっていました。臨床研修を通して基本的な知識を得ながら、病棟スタッフに支えられ、今では利用者に関わる中で笑顔を見せただけのようになりました。利用者との関わりを大切にしながら、確かな看護を提供できる看護師を目標に、知識・技術ともに向上させていきたいと思います。</p>	<p>プリセプターや師長、病棟の先輩方の温かいご指導があつて、無事に臨床研修を修了することができました。少しずつできることが増えてきた一方で、まだまだ判断に悩むことも多々あり、先輩方に助けていただきながら利用者のケアにあたっています。利用者の生活を豊かにする看護ケアができるよう、これからも日々励んでいきたいと思ひます。</p>
---	--	--



<p>4月に入職してからあつという間の半年だったように思ひます。不安やとまどいも多い中、沢山の先輩方や同期に支えられていることを実感する日々でした。個別性の高い利用者に合わせて必要なケアを行う難しさを感じ悩むこともありますが、これからも学習を続け利用者のセンターでの生活を支えることができる看護師になりたいと思ひます。</p>	<p>入職当初、利用者へのかかわり方や看護技術が未熟で不安ばかりでしたが、先輩方の丁寧なご指導とフォローの下、基本的な看護を実践できるようになりました。まだまだこれから学ぶことが沢山あります。日々の学びを大切に、利用者への個別性を考えながら支援をするとともに自らも成長していけるよう頑張っていきたいと思ひます。</p>	<p>6か月間の研修の間にいろいろなことを学びました。基礎となる障害に対しての理解から、利用者の個別性を理解し、実際に看護を行うための知識と技術を学ばせていただきました。まだまだ未熟な面ばかりですが、今後も利用者の生活と生命を支える知識と技術を身に付けていきたいと思ひます。</p>
---	---	---

〒183-8553  
東京都府中市武蔵台2-9-2  
東京都立府中療育センター  
電話 042 (323) 5115  
Fax 042 (322) 6207

\*-\*-\*ホームページもご覧下さい\*-\*-\*  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>